

2022年度第1回物理応物連絡会 議事録

日時：2023年2月9日(木)10:00-11:30

場所：オンライン

(略敬称)

出席者：野中 千穂(責任者/物理)、松木 伸行(副責任者/応物)、板倉 明子(物理)、
庄司 一郎(応物)、筑本 知子(応物)、濱口 幸一(物理)
事務局) 苅米(応物)、岡山(応物)、桑原(応物)、見供(物理)、宮野(物理)

欠席者：市川 温子(物理)、門 信一郎(物理)、齋藤 公彦(応物)、肥山 詠美子(物理)、
松下 祥子(応物)

資料

資料1_チームインドからのメール 20230128

資料2_第8回 ICWIP IOC 委員会からのメールと添付資料 20230112

参考資料_IUPAP_ICWIP_2021_参加報告(20210920 日物応物)

議事

○自己紹介

委員の自己紹介をした。

○IUPAP Women in Physics[2023年7月10日-14日]参加について

・チームリーダー

1月30日が登録締め切りだったため当会責任者の野中先生で登録済み

・チーム[2月15日締め切り] ※5名(オブザーバーとして追加参加可)

野中 千穂(責任者/物理)

松木 伸行(副責任者/応物)

庄司 一郎(応物)

濱口 幸一(物理)

もう1名は物理学会で2月14日までに決定する。→会議後、決定。

小林 夏野（物理）

・オブザーバー参加

板倉 明子（物理）

筑本 知子（応物）

・発表内容、担当者

Country paper については、前回のポスターをテンプレートとして、野中先生、松木先生で各学会の情報を入れていくこととした。前回、学会ごとの状況発表ではなく日本全体の物理分野の状況を発表してほしいとのレフェリーコメントがあったため、その点も検討する。そのほか、学会でそれぞれポスターを用意する場合は、各学会で作業を進めることとした。

Country paper について

<内容>

日本での取り組みや現状を記載する。なかなかうまくいっていないということでも、現状として報告できるものがあれば取り入れる。

<タイトル>

Current status and Perspective on Diversity in Physics-related Fields in Japan

<題材候補>

- ・物理系のパーマネントの女性雇用枠の数（文章）
- ・女子学生の工学系の希望者の急増（文章）
- ・夏学
- ・学協会連絡会第 20 回シンポジウム「男女間の積極的格差改善措置(女性限定公募・クォータ制など) について考える～より公平な社会の実現を目指して～」報告書
https://djrenrakukai.org/doc_pdf/2022/20th_symp_report.pdf
- ・学協会連絡会報告書抜粋（板倉先生作成のもの）

<ポスター構成詳細>

- ・ポスター前半はそのまま使用し、後半のグラフなどを上記の情報に差替える。
- ・会長挨拶の部分を物理、応物の会員数などに差替える。（昨年作成のデータあり。更新の

みで作成可。)

- ・夏学などの華やかな写真があれば挿入する。なければグラフのみ、または応物の AP ちゃんを挿入してもよい。

アブストラクトについて

提出が必要か、現状、不明。前回のものをテンプレートとして更新する。

今後の作成作業について

- ・昨年のポスターpptを増田先生から継承し、野中先生、松木先生とで作成を進める。メールにはccに参加メンバーや以前の参加者などを入れ、随時アドバイス等を受ける。

オーラル発表について

前回は、Country paper がオーラル発表、同時開催の AAPPS でも 1 件オーラル発表の想定で準備をしていたが、直前に Country paper はポスター発表のみと分かった。今回はオーラル発表となるのか、ポスター発表となるのか、また AAPPS の同時開催があるのか現時点で不明。直前に依頼される場合もあるので、オーラル発表が必要となった場合は、Country paper は野中先生、AAPPS は野中先生、松木先生で対話形式の発表をすることに決定した。

○参加費について

現状、情報がないため、野中先生より運営に問い合わせをすることとなった。

○次回、当連絡会開催について

6月に会議を予定しておき、報告書作成のための参加分担などを決めることとした。

以上